

第6回14/05/19 (CS3年・荒井) ネットワークプランニング

サブネット化とIPアドレスの割り振り

※本資料は授業後(数日以内)にWEBで閲覧できるようにします※

2014/05/19

第6回ネットワークプランニング(荒井)14

1

今日の予定

- ○IPアドレスの割り振り
 - アドレスクラス・サブネットをきちんと理解して、各ネットワークのIPアドレス範囲がきちんとわかるようにしよう！
- □クラスC2本のNW設計(復習)
- ○サブネット化(※6.3)
 - ・サブネット化とサブネットマスク
 - ・ネットワークアドレスとブロードキャストアドレス
 - ・プライベートアドレスとグローバルアドレス
 - ・サブネットとIPアドレスの計算(※6.4)
- ●演習;サブネット化したNWとIPアドレス設計と計算

2014/05/19

第6回ネットワークプランニング(荒井)14

2

○IPアドレスの割り振り

- IPアドレスを各ノードに割り振るのは、ネットワーク管理者として基本中の基本
 - 組織のネットワーク管理は必ずしも1箇所とは限らない
 - 例えば、大学場合、大学全体、学科NW、研究室NWなどと階層化して分割管理すること多い
 - このような場合IPアドレスは、下の各管理者に任せて管理する場合も多い
- アドレスクラス・サブネットをきちんと理解して、各ネットワークのIPアドレス範囲がきちんとわかるようにしないといけない
 - 今回は実践的なサブネットについて勉強しよう。
- IPアドレス割り振りの基本方針(ポリシー)は管理者によって違う
 - 例; ユーザが直接利用する端末は小さなIPアドレスから、
 - 管理者が利用する機器などは大きなIPアドレスから など

2014/05/19

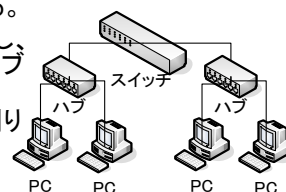
第6回ネットワークプランニング(荒井)14

3

◆先週の演習課題復習: クラスC2本のNW設計

先週の課題の解説

- 2本のクラスCネットワークから構成される一つのネットワークを設計し、Visioで描画しよう!
- 2本のネットワーク(いずれもクラスC)は、192.168.1と192.168.129のネットワークアドレスであるとする。
- 各ネットワークにはスイッチ1台(合計2台)を接続し、各スイッチにはハブ2台(合計4台)を接続し、各ハブにはPC2台(合計8台)を接続しなさい。
- 必要なノードに対して全てIPアドレスを具体的に割り振って、それらを記入しなさい。
 - PCなどのユーザ利用機器は一番小さい数字から、
 - ネットワーク機器は一番大きい数字から割り当てること
 - IPアドレスが不要な機器には割り振らないこと
- 各サブネット上の最大接続ホスト数を求めよ。
 - 計算式と結果を記入しなさい。



片側のネットワーク構成、もう片方も全く同じ構成とする



別資料で解説

2014/05/19

第6回ネットワークプランニング(荒井)14

4

サブネットマスク(※6.3)

- 32bitのIPアドレスにおいて、ネットワーク部とホスト部の境界を判別するための情報
 - クラスAは1オクテッド、Bは2、Cは3が標準
- 表記方法には複数ある
 - 例えば、ネットワーク部24bit+ホスト部8bit
 - → / 2 4 「プレフィックス表記」
 - → 11111111 11111111 11111111 00000000
 - → F F . F F . F F . 0 0 「16進表記」
 - → 255 . 255 . 255 . 0 「10進表記」

2014/05/19

第6回ネットワークプランニング(荒井)14

5

○サブネット化(※6.3)

- 本来のクラスの定義のまま利用→クラスフルアドレス
- 一つのネットワークは、用途に応じて適切な大きさとする事により、限られたIPアドレスを有効に利用できる
 - ネットワーククラスA,B,Cでは、最低(クラスC)でも、一つのネットワークに200台程度(254台以内)のノードを接続することが前提となる
 - クラスBだと、6万台以上
 - 例えば研究室を一つのネットワークとしたい場合は、たかだか30台程度のノードしか接続しないと考えられるので、1研究室に対してクラスC1本を使ってしまうのは非常に無駄
- 一つのネットワーククラスを分割して、複数のネットワークとして利用することができる
 - ⇒サブネット化
 - 例えば、クラスCを4つに分割する。約256台のネットワーク一つから、約64台のネットワークが4本利用できるようになる。

2014/05/19

第6回ネットワークプランニング(荒井)14

6

サブネットとIPアドレスの計算

- 大きなネットワークは、ネットワーク効率が落ちる
 - 1対1の通常通信ではないブロードキャストだらけの通信で混雑してしまう、など
 - セキュリティ的にもあまり良くない
 - 大きなネットワークに、少数のノードしか接続しない(少数のIPアドレスしか使わない)のは、有限なIPアドレス空間が無駄
- ネットワークを設計する上でサブネット化は重要
 - 全体でいくつのネットワークが必要なのか？
 - 各ネットワークで、何台のノードが接続されそうなのか？
 - 利用予定のノード数をやや余裕をもって接続可能なネットワーク空間規模としてサブネット化するとよい
 - ユーザの利用想定と、サブネットに関する知識が必要
 - サブネット化により、一つのネットワークがいくつのIPアドレス数(ホストアドレス数)となるのかきちんと計算できる必要がある

2014/05/19

第6回ネットワークプランニング(荒井)14

7

サブネット化の例

- クラスCの192.168.1/24のネットワークを4つに分割
 - NW-ad:192.168.1.0はクラスCで第4オクテットがホスト部なので、192.168.1と第4オクテットを省略して書く場合がある。
 - 本来クラスCのホスト部は下位1オクテットのみ(クラスCの定義)
 - 全IPの範囲:192.168.1.0~192.168.1.255
 - 4つに分割すると、
 - 1) 192.168.1.0 ~ 192.168.1.63
 - 2) 192.168.1.64 ~ 192.168.1.127
 - 3) 192.168.1.128 ~ 192.168.1.191
 - 4) 192.168.1.192 ~ 192.168.1.255
 - の4つのネットワークとして利用できるようになる
 - ホスト部である下位8ビットを4つ=2^2に分割、つまり8ビットの上位2ビット分をネットワーク部、下位6ビットがホスト部

2014/05/19

第6回ネットワークプランニング(荒井)14

8

サブネット化によるサブネットマスクの変化

- サブネット化は、本来ホスト部である部分の上位ビットを(サブ)ネットワーク部とすることによりサブネット化する。
- (サブ)ネットワーク部のビット数は、分割するのに必要なビット数分
- サブネット化によるサブネットマスク =
本来のネットワーク部ビット数 +
(サブ)ネットワーク部ビット数
- 分割するのに必要なビット数とは;
 - 4分割するなら2ビット($2^2=4$)
 - 8分割するなら3ビット($2^3=8$)
 - 256分割するならば8ビット($2^8=256$)...

2014/05/19

第6回ネットワークプランニング(荒井)14

9

サブネット化のサブネットマスクの例(1)

- クラスC(/24)のネットワークを4つに分割(サブネット化)
 - 本来のホスト部1オクテッド=8ビットの内、上位2ビット($2^2=4$ 通り)をネットワーク部とする⇒ /26 (=24+2)
 - ホスト部は8ビット→6ビット
 - /24: 1111 1111 . 1111 1111 . 1111 1111 . 0000 0000
を4分割すると、
 - /26: 1111 1111 . 1111 1111 . 1111 1111 . 1100 0000
になる。つまり
 - /26 = FF.FF.FF.C0 = 255.255.255.192
- クラスB(/16)のネットワークを256個に分割(サブネット化)
 - 本来のホスト部2オクテッド=16ビットの内、上位8ビット(256通り)をネットワーク部とする⇒ /24 (=16+8)
 - /24はクラスCと同じ
 - /24 = FF.FF.FF.00 = 255.255.255.0

2014/05/19

第6回ネットワークプランニング(荒井)14

10

サブネット化のサブネットマスクの例(2)

- クラスC(/24)を8個のサブネットに分ける場合、
 - 本来の8ビットのホスト部の内、上位3ビットをネットワーク部に割り振ればよい。なぜならば $2^3=8$ だから。
 - ネットマスクは、24+3 で→ /27, FF.FF.FF.E0
- つまりサブネットに分ける場合は、2,4,8,16,...のように2のべき乗個でしか分けない
 - 3つに分割する等はできない
 - クラスCは256個に分けることはできない。ホスト部が元々8ビット(256)しかないから。
 - クラスCを128個に分けると、一つのサブネットでは、二つのIPアドレスのみになる。これは次のネットワークアドレスとブロードキャストアドレスに相当し、結果として無意味な分割となる。

2014/05/19

第6回ネットワークプランニング(荒井)14

11

サブネット化のサブネットマスクの例(3)

- 本来のクラスB
 - ネットワーク部が上位16bit(ホスト部は下位16bit)
 - よって、本来のサブネットマスクは/16, FF.FF.00.00
- クラスBを二つに分割する場合 (実用的ではない)
 - サブネットマスクは、
1111 1111 . 1111 1111 . 1000 0000 . 0000 0000
/17 もしくは FF.FF.80.00 となる
- クラスBを256個に分割する場合
 - 本来のホスト部16bitの内上位8bit分をネットワーク部とすればよい
 - よって、クラスCと同じ/24のネットワークが256個できる

2014/05/19

第6回ネットワークプランニング(荒井)14

12

サブネットとIPアドレス範囲

- クラスCの192.168.1を4つに分割した場合
 - 上位24+2ビットがネットワーク部、下位8-2ビットがホスト部; サブネットマスクは/26
 - 以下「xx xxxx」部分がホスト部で、[]内と共にビット表記
 - 1番目のサブネット; 192.168.1.0/26のサブネットと呼ぶ
 - 192.168.1.[00]xx xxxx つまり 192.168.1.0~192.168.1.63
 - 2番目のサブネット; 192.168.1.64/26のサブネットと呼ぶ
 - 192.168.1.[01]xx xxxx つまり 192.168.1.64~192.168.1.127
 - つまり、192.168.1.[01]00 0000], 192.168.1.[01]00 0001, ..., 192.168.1.[01]11 1111
 - » 0100 0000は64で、つまりネットワークアドレス
 - 3番目のサブネット; 192.168.1.128/26のサブネットと呼ぶ
 - 192.168.1.[10]xx xxxx つまり 192.168.1.128~192.168.1.191
 - 4番目のサブネット; 192.168.1.192/26のサブネットと呼ぶ
 - 192.168.1.[11]xx xxxx つまり 192.168.1.192~192.168.1.255

2014/05/19

第6回ネットワークプランニング(荒井)14

13

[復習] ネットワークアドレスとブロードキャストアドレス

- IPアドレスは32bitで、上位ネットワーク部+ホスト部という構成
- ネットワークアドレスとは、ネットワークそのものを意味する特殊なIPアドレス
 - ホスト部のビットが全て0
 - 例えば、192.168.128.0/24のクラスCネットワークの場合、
 - ネットワーク部3オクテッド: 192.168.128
 - ホスト部1オクテッド: [0000 0000]二進=0
 - ネットワークアドレス=192.168.128.0
- ブロードキャストアドレスとは、ブロードキャスト(一斉同報通信)をする際の特殊なIPアドレス
 - ホスト部のビットが全て1
 - 例えば、192.168.128.0/24のクラスCネットワークの場合、
 - ネットワーク部3オクテッド: 192.168.128
 - ホスト部1オクテッド: [1111 1111]二進=255
 - ブロードキャストアドレス=192.168.128.255

2014/05/19

第6回ネットワークプランニング(荒井)14

14

[復習] ネットワークアドレスとブロードキャストアドレス例

- 例えば、172.26.0.0/16のクラスBのネットワークの場合、
- ネットワーク部2オクテッド: 172.26
- ホスト部2オクテッド:
 - 全て0: [0000 0000 . 0000 0000]二進
= 0.0
 - 全て1: [1111 1111 . 1111 1111]二進
= 255.255
- ネットワークアドレス = 172.26.0.0
- ブロードキャストアドレス = 172.26.255.255

2014/05/19

第6回ネットワークプランニング(荒井)14

15

サブネットにおけるネットワークアドレスとブロードキャストアドレス例(1)

- クラスCの192.168.1/24のネットワークを4つに分割した最初の、「192.168.1.0~192.168.1.63」の例
 - ネットワーク部は24+2=26bit, ホスト部下位6bit
- サブネットマスク: /26 FF.FF.FF.C0 255.255.255.192
- ネットワーク部上位26bit: 192.168.1.[00xx xxxx]
 - []内は2進数。4オクテッド目は、数字としては表せず、ビット表現
- ネットワークアドレス = 192.168.1.0
 - ホスト部下位6bit全て0: [xx00 0000]二進
 - 下位1オクテッドのみについて; [0000 0000]=0となる
 - 簡単に言うと、IPアドレス範囲の一番最初
- ブロードキャストアドレス = 192.168.1.63
 - ホスト部下位6bit全て1: [xx11 1111]二進
 - 下位1オクテッドのみについて; [0011 1111]=63となる
 - 簡単に言うと、IPアドレス範囲の一番最後

2014/05/19

第6回ネットワークプランニング(荒井)14

16

サブネットにおけるネットワークアドレスとブロードキャストアドレス例(2)

- クラスCの192.168.1/24のネットワークを4つに分割した二番目の、「192.168.1.64～192.168.1.127」の例
 - ネットワーク部は24+2=26bit, ホスト部下位6bit
- サブネットマスク: /26 FF.FF.FF.C0 255.255.255.192
- ネットワーク部上位26bit: 192.168.1.[01xx xxxx]
 - []内は2進数。4オクテッド目は、数字としては表せず、ビット表現
- ネットワークアドレス=192.168.1.64
 - ホスト部下位6bit全て0:[xx00 0000]二進
 - 下位1オクテッドのみについて:[0100 0000]=64となる
 - 簡単に言うと、IPアドレス範囲の一番最初
- ブロードキャストアドレス=192.168.1.127
 - ホスト部下位6bit全て1:[xx11 1111]二進
 - 下位1オクテッドのみについて:[0111 1111]=127となる
 - 簡単に言うと、IPアドレス範囲の一番最後

2014/05/19

第6回ネットワークプランニング(荒井)14

17

サブネットにおけるネットワークアドレスとブロードキャストアドレス例(3)

- クラスCの192.168.1/24のネットワークを4つに分割した場合
 - ネットワーク部は24+2=26bit, ホスト部下位6bit
 - サブネットマスク(4ついずれも):
/26 FF.FF.FF.C0 255.255.255.192
- 1) IP空間; 192.168.1.0 ~ 192.168.1.63 (64個分)
 - [NW-ad] 192.168.1.0 [BC-ad] 192.168.1.63
- 2) IP空間; 192.168.1.64 ~ 192.168.1.127 (64個)
 - [NW-ad] 192.168.1.64 [BC-ad] 192.168.1.127
- 3) IP空間; 192.168.1.128 ~ 192.168.1.191 (64個)
 - [NW-ad] 192.168.1.128 [BC-ad] 192.168.1.191
- 4) IP空間; 192.168.1.192 ~ 192.168.1.255 (64個)
 - [NW-ad] 192.168.1.192 [BC-ad] 192.168.1.255

2014/05/19

第6回ネットワークプランニング(荒井)14

18

サブネットにおけるネットワークアドレスとブロードキャストアドレス例(4)

- クラスBの172.26/16のネットワークを128個に分割した場合
 - $(2^7=128)$ ネットワーク部は $16+7=23\text{bit}$, ホスト部下位 $16-7=9\text{bit}$
 - サブネットマスク(いずれも): /23 FF.FF.FE.00 255.255.254.0
 - 512個($=2^9$)のIP-ad $\times$ 128個のネットワーク=65,536個
 - これは本来のクラスBと同じ数
- 1番目) IP空間; 172.26.0.0 ~ 172.26.1.255 (512個分)
 - [NW-ad] 172.26.0.0 [BC-ad] 172.26.1.255
- 2番目) IP空間; 172.26.2.0 ~ 172.26.3.255 (512個分)
 - [NW-ad] 172.26.2.0 [BC-ad] 172.26.3.255
- ...
- 128番目) IP空間; 172.26.254.0 ~ 172.26.255.255 (512個分)
 - [NW-ad] 172.26.254.0 [BC-ad] 172.26.255.255

2014/05/19

第6回ネットワークプランニング(荒井)14

19

参考; FLSM, VLSM, CIDR

- FLSM
 - 全てのサブネットで同じサブネットマスクを利用する
 - 本授業のサブネット化はFLSMを基本とします。
- Variable Length Subnet Mask; 可変長サブネットマスク
 - 複雑なサブネット化により、より効率よくIP空間を構築できるようになる
 - 様々なサブネットマスクを使って一つのネットワークを分割可能な技術
 - サブネット化されたネットワークを更にサブネット化するなど
 - 例えば、クラスCを、64個+64個+128個のIP空間にサブネット化することも可能
- Classless Inter-Domain Routing
 - クラスの境界を無視したIPアドレスの割り当てと、経路集約ができるメカニズム

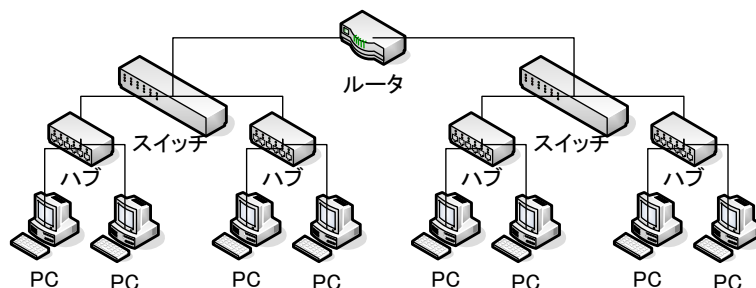
2014/05/19

第6回ネットワークプランニング(荒井)14

20

今日の演習課題準備; Visioによる作画

- (2ネットワーク) 1ルータと1×2台スイッチ+2×2台HUBによるLAN構成と8台(2×2×2台)PC接続構成をVisioで作画しよう
- クラスCとクラスBをサブネット化して、その内の二つを利用
- IPアドレスや機器の説明(PC,ハブなど)は不要
 - IPアドレスが必要な機器と不要な機器は頭にいれておこう



2014/05/19

第6回ネットワークプランニング(荒井)14

21

●演習; サブネット化とIPアドレス設計と計算(1)

- クラスBとクラスCを各々サブネット化し、その内の2つのサブネットをルータ1台に接続。
 - まず作画(先に準備したものをそのまま利用)
 - 詳細な条件は次の通り。
- 必要な各機器にIPアドレスを割り振って記入!
- 各ネットワークのネットワークアドレス+サブネットマスク、及びブロードキャストアドレスを記入!
- 各サブネットには理論上何台のノードを接続できるのかを計算して記入!

2014/05/19

第6回ネットワークプランニング(荒井)14

22

●演習;サブネット化とIPアドレス設計と計算(2)

- ネットワーク1(クラスCのサブネット化)
 - プライベートアドレス・クラスC: 192.168.129.0
 - このネットワークを8個にサブネット化し、
 - 5番目のサブネットを利用
- ネットワーク2(クラスBのサブネット化)
 - プライベートアドレス・クラスB: 172.26.0.0
 - 1024(=2¹⁰)個にサブネット化し、
 - 1024番目のサブネットを利用
- 必要な各機器にIPアドレスを割り振って記入しなさい。
 - ホストのIPは小さい方から、ネットワーク機器のIPは大きい方から割り振るものとする。
- 各ネットワークのネットワークアドレス+サブネットマスク、及びブロードキャストアドレスを記入しなさい。
- 各サブネットにおいて、理論上何台のノードを接続できるのかを計算して記入しなさい。

2014/05/19

第6回ネットワークプランニング(荒井)14

23

今日のまとめ

- ○IPアドレスの割り振り
 - アドレスクラス・サブネットをきちんと理解して、各ネットワークのIPアドレス範囲がきちんとわかるようにしよう！
- □クラスC2本のNW設計(復習)
- ○サブネット化(※6.3,6.4)
 - ・サブネット化とサブネットマスク
 - ・ネットワークアドレスとブロードキャストアドレス
 - ・サブネットとIPアドレスの計算
- ●演習;サブネット化したNWとIPアドレス設計と計算
- ★**次週、小テスト**を予定。十分に復習を！！
 - NW基礎知識部分、2進16進数、サブネット化

2014/05/19

第6回ネットワークプランニング(荒井)14

24